

特別支援教室のお使い

2月号

杉並区立高井戸第四小学校 特別支援教室拠点校

たかし教室直通 03-5336-9522

先日はご多用の中、保護者会にお越しくださり、ありがとうございました。保護者の皆様の苦手なことへの向き合い方や、お子さんたちへの思いなどを知ることができ、よかったです。

いよいよ今年度も残りわずかとなってきました。進級・進学を控えて緊張する子供たちも多いと思います。少しでも不安が解消されるよう指導・サポートしていきます。

引き続き、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いします。



個人面談お知らせ

3月12日（水）～21日（金）まで個人面談を行います。

先日「高四小エリア保護者個人面談日時希望調査」をお配りしました。

2月7日（金）までにご提出ください。

後日、面談日時を調整してご連絡いたします。予定の変更・追加等はその都度お知らせします。

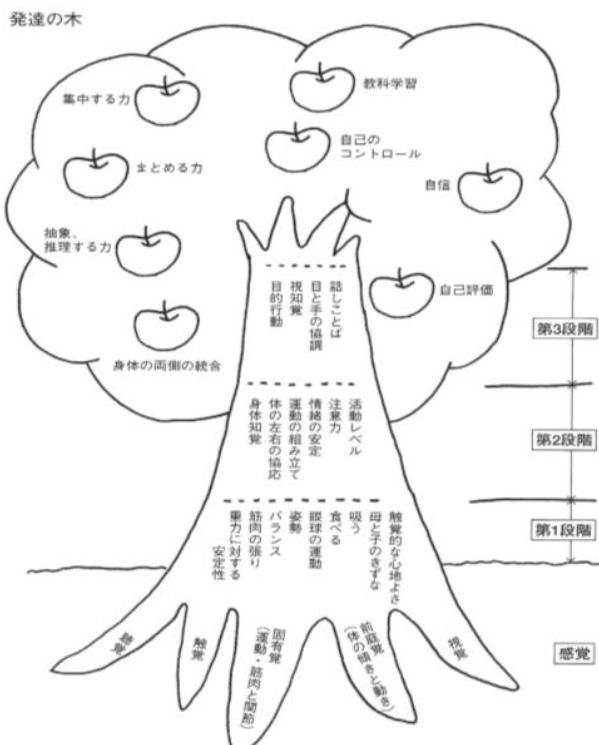
どうして特別支援教室でトランポリンやバランスボールを使う運動をするのか？

多くの特別支援教室にはトランポリンやバランスポールなどが用意されており、それらを使った運動学習を行います。そこにある目的の一つとして、感覚統合があります。

感覚統合を行う良さとは、何なのでしょう？？

まず我々には、**固有覚**と**前庭覚**という2つの感覚があります。**固有覚**は、筋肉や関節などにあり、手足の位置や体の動きを知る感覚です。**前庭覚**は、体の傾きや動き、運動の速さを感じ取る感覚を言い、バランス感覚のこととします。これらの感覚は、日常生活を送るうえで我々の根幹を担っています。（右図参照、「たのしくあそんで感覚統合 手づくり」）

【1】感覚統合のみちすじ



もし、これらの感覚の発達が不十分だと、姿勢の保持が難しかったり（例えば机に突っ伏すような姿勢になるなど）、刺激を過剰に感知しやすかったり（例えば大きな音が苦手など）、必要以上に動き回ったり（感覚が鈍く、刺激を求めてしまっている状態）します。

そこで、トランポリンやバランスボールなどを使った運動などを学習に取り入れて、感覚の強化を図る指導をしています。

感覚統合運動の例

（トランポリン、平均台、ブランコ、手押し相撲、ケンパー、狭い場所を通る活動など）

このような一見すると簡単な遊びと思われるようなことが、感覚統合の要素をもっています。こういった簡単な遊び体験を通して感覚を高めていくことが、より高度な競技や球技、あるいは学習活動に臨むためには重要です。

2月の学習予定

◎小集団学習「みんなの時間」

「ペットボトルキャップを使って活動しよう」

- ・注意力、集中力を身に付けることができる。
- ・指先を積極的に動かすことができる。
- ・友達と協力してルールを守って活動できる。

「他者意識を育む活動」

- ・自分の意見をもつことができる。
- ・他者意識をもって取り組むことができる。
- ・状況に合わせて、自分の意見を変えることができる。

「見通しをもってチームで協力する活動」

- ・見通しをもって考えることができる。
- ・チームで声を掛け合い協力することができる。
- ・ルールを守って楽しく活動することができる。

「ラッキーコインゲーム」

- ・相手の話をしっかり聞き、聞いた情報を基に動くことができる。
- ・落ち着いて思いを伝え、行動することができる。
- ・ルールを守って、楽しく活動することができる。

